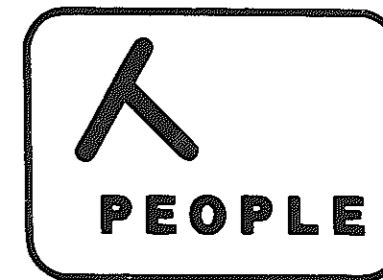


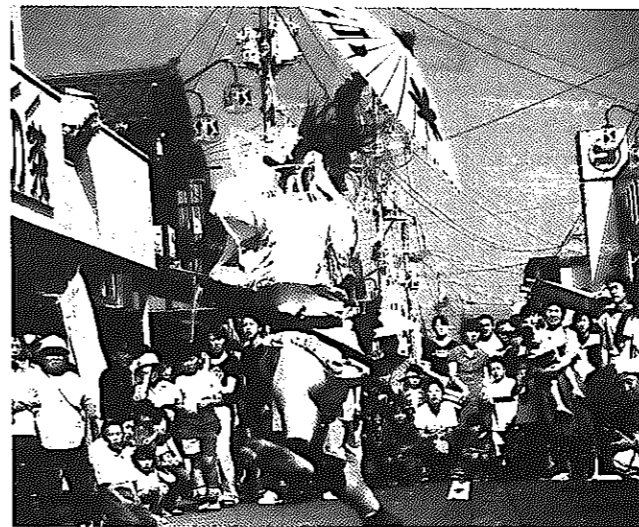
広報しろね

S·h·i·r·o·n·e

1999.8.1
No.551



踊っているときは主役



木津吉博さん

新飯田祭りの中の一つ「天狗舞い」。天狗が魔物を退治するという話の迫力のある演技の中にも、コミカルな演出で観衆の笑いを誘います。その天狗役を務めているのは、木津吉博さん(三十歳・川前甲)です。

木津さんが天狗を舞ったのは十五歳くらいの時。それまでは、新飯田祭りで悪魔払いを務める「小川連中」で神楽舞いを踊っていました。母親の薦めもあって、神楽舞いの延長のつもりで天狗舞いを舞うようになったそうです。

「初めのころは緊張して、せりふを忘れないようにと思っていました。踊るときは主役。このころは天狗になりきって踊っています」と話す木津さんは、約十五年のキャリア。今では踊りの中にアドリブも取り入れ、余裕も感じられます。

天狗舞いの後継者は、一番若い木津さんを含めて現在三人。「俺の代で終わらせたくない。何人かの若い人たちが、天狗舞いに興味を持ってくれます。天狗舞いにしても、神楽舞いにしても、新飯田祭りの一つとして守り続けていきたいですね」と頼もしく話してくれました。

※資源保護のため再生紙を使用しています。※紙上の記事・写真の無断転用を禁じます。

古木老木の伝承

～ふるさとの木々～ ホウビマツ



白根小学校の校庭に立つひとときわ高い樹木、ホウビマツ。樹齢およそ九十年といわれ、樹高は二十メートル、幹周は三・三七メートルあります。

枝に付いた葉の感じが鳳凰の尾に似ているところから、白根ではこの木を「鳳尾松」または「鳳美松」と呼んでいます。和名をヌマスギ、別名をラクウショウ(落羽松)といいます。

ヌマスギは、スギ科の落葉針葉樹で原産はアメリカ。樹高は五十メートルにまで達します。湿地帯に自生し、呼吸根を地上に直立させる木です。葉は淡緑色線形で羽状に付き、秋には枝と共に落葉します。日本に渡来したのは

明治の初め。軽い材質を利用し、鉄道のまぐら木やおけ、屋根板などにするために輸入されました。

ホウビマツがいつここに植えられたかは明らかではありません。明治四十二年、この付近に忠魂碑が建立され、大正四年には同じ盛り土の上に須藤翁之碑が建立されました。これを称して「雙美が岡」と呼んでいましたが、いずれの碑も終戦後に移築されました。ホウビマツは、忠魂碑建立の時に植えられたともいわれています。

ホウビマツは昭和五十二年、白根小学校の天然記念樹に指定されました。現在も、子供たちを見守っています。

▶数字で見る市勢 ※7月1日現在 ※()内は前月比

人口	40,555人(+40人)
男	19,834人(+8人)
女	20,721人(+32人)
世帯	10,753世帯(+12世帯)
出生	27人 死亡 16人
6月中の転入	86人 転出 55人

編集ルーム ◎8月がやって来ました。

◎帰宅途中、市役所隣の児童公園で「公衆電話からテレホンカードが出てくる音がする…」と思ったら、虫の声でした。◎電子音に囲まれた現代社会。同じような音でも、自然のものは、ほっとします。◎西の空に星は輝き、すべて世はことな。夏の薄暮の平和なひとときでした。◎夏ばてや水の事故に気を付けてお過ごしください。(よ)

安心して暮らせる社会へ

白根市福祉サービスのご案内

もうすぐ始まる介護保険
まらの詳細
お知らせ
みんなのページ
広げれば健康家族
シリーズ・人

